有限会社シマタニ昇龍工房

富山県高岡市

明治150年

生産性向上　需要獲得　担い手確保　ものづくり　サービス

ポイント 高岡の伝統的な鏧子（けいす）製造技法を活かし、今までに無いテーブルウエア「すずがみ」を開発

○鏧子作りで培った伝統的な鍛金技法を活用し、テーブルウエア「すずがみ」を独自に開発
○伝統的な鍛金技法を活用するからこそ付与される「すずがみ」の自由度や模様
○地域の大学からの採用やシニア人材の雇用など、多様な人材を活用

企業基本情報

所在地	富山県高岡市千石町 4-2
電話 /FAX	0766-22-4727/0766-22-4717
URL	http://www.syouryu.co.jp/
代表者	代表取締役 島谷　粂一
設立	1909 年
資本金	300 万円
従業員数	13 人

会社概要

1909 年に工房を立上げ、全国の寺院向けの鏧子（けいす、読経の際鳴らす鐘）を専門に製造している。高岡市では唯一、一子相伝の伝統技法を今に伝えてきた。しかしながら、鏧子の買替え需要は少なく、海外からも一部輸入されており、鏧子の製造のみでは先行きが厳しい。そこで、鏧子作りにおける職人技である鍛金技法を活用した、今までに無いテーブルウエア「すずがみ」を５年前に開発した。現在では、売上高の約７割を占めるようになっている。

同社が製造している鏧子

革新的な製品開発や創造的なサービスの提供に関する取組の内容

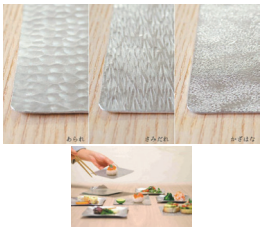
鍛金技法を活用し、テーブルウエア「すずがみ」を独自に開発

鏧子の買替え需要は少なく一部海外からも輸入されているなど、鏧子を取り巻く厳しい環境に危機感を持ち鏧子作りの伝統的な鍛金技法を活用した新しいアイテム「すずがみ」を５年前に開発した。「すずがみ」は紙のように薄く、自由に曲げることができるテーブルウエア。発売以来累計４万個を販売し、同社売上高の約７割を占めるに至っている。富山県の補助金も有効に活用し販路開拓を行ったことにより、国内の百貨店、セレクトショップだけでなく、海外のショップでも取り扱われている。

繰り返し自由に曲げられる「すずがみ」

伝統的な鍛金技法で培われた「すずがみ」の自由度や模様

通常、すずの板を叩くとひび割れを起こすのだが、同工房の職人が鍛金の技法を用いて叩くとひび割れは起きない。長年鏧子作りで培った鍛金の技術である。この鍛金技法を活用して製造したものが同社の「すずがみ」であり、紙のように薄く、自由に何度も曲げることができるという、今までに無かった特徴を備えたものを作り出すことができた。また「すずがみ」は、すずの板を何度も叩くことで独自の模様を商品に与えており、意匠性にも優れている。



上段：意匠性のある独自の模様
下段：食器としての利用

地域の大学の若手やシニア人材の雇用など、多様な人材を活用

「すずがみ」の販売が好調であることから、従業員が４名だったところを９名増やし、13 名とした。雇用については、地域の美術工芸大学からも採用するなど、地域の大学と連携し、若手人材を獲得している。

また、地元のシニア人材も雇用して多様な人材の確保に取り組んでいる。地域の雇用に貢献するだけでなく、「すずがみ」の製造に必須である、伝統的な鍛金技法の承継と拡大にも貢献している。

「すずがみ」製造に必要な鍛金技法